

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-060637

(43)Date of publication of application : 29.02.2000

(51)Int.Cl.

A45D 40/04

(21)Application number : 11-197619

(71)Applicant : L'OREAL SA

(22)Date of filing : 12.07.1999

(72)Inventor : GUERET JEAN LOUIS

(30)Priority

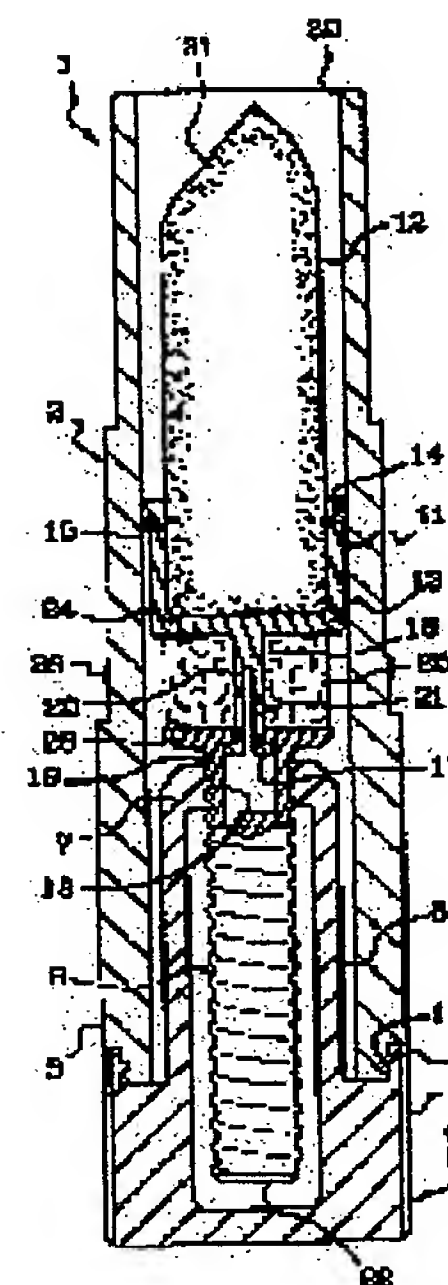
Priority number : 98 9808936 Priority date : 10.07.1998 Priority country : FR

(54) ROD-LIKE ARTICLE CONTAINER HAVING OVERPRESSURE ABSORBING MECHANISM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To simplify structure at a low-cost and to improve the reliability in the airtightness by axially moving a cup part inversely to a takeout part in generating overpressure in a sleeve, by at least partially absorbing the overpressure, and by providing an elastic means under a member for sealing.

SOLUTION: A sealing structure formed in the bottom and the top of a cup part compresses air captured in a part of a sleeve 2 partitioned by two seal areas. This compression generates overpressure in the sleeve 2 inside, and the overpressure axially compresses a foam body block 25 and slightly returns the cup part 11 back to the sleeve 2 inside. The axial height of a housing 18 formed in a screw rod member 8 is sufficient enough to respond thereto and axially move the lock end 17 across the approximately equal distance to the compression of the foam body block 25. Responding to the compression, the compressed air under the foam body block 25 is released via an unsealed lock area between an operation member 4 and the sleeve 2.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 12.07.1999

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3322306

[Date of registration] 28.06.2002

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2000-60637
(P2000-60637A)

(43)公開日 平成12年2月29日(2000.2.29)

(51)Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テーマコード(参考)

A 4 5 D 40/04

A 4 5 D 40/04

B

審査請求 有 請求項の数15 O L (全 7 頁)

(21)出願番号 特願平11-197619

(22)出願日 平成11年7月12日(1999.7.12)

(31)優先権主張番号 9808936

(32)優先日 平成10年7月10日(1998.7.10)

(33)優先権主張国 フランス(F R)

(71)出願人 391023932

ロレアル

LOREAL

フランス国パリ, リュ ロワイヤル 14

(72)発明者 ジャンールイ アッシュュ. ゲレ

フランス国 75016 パリ, アヴニュー

レイモン ボアンカレ 27

(74)代理人 100109726

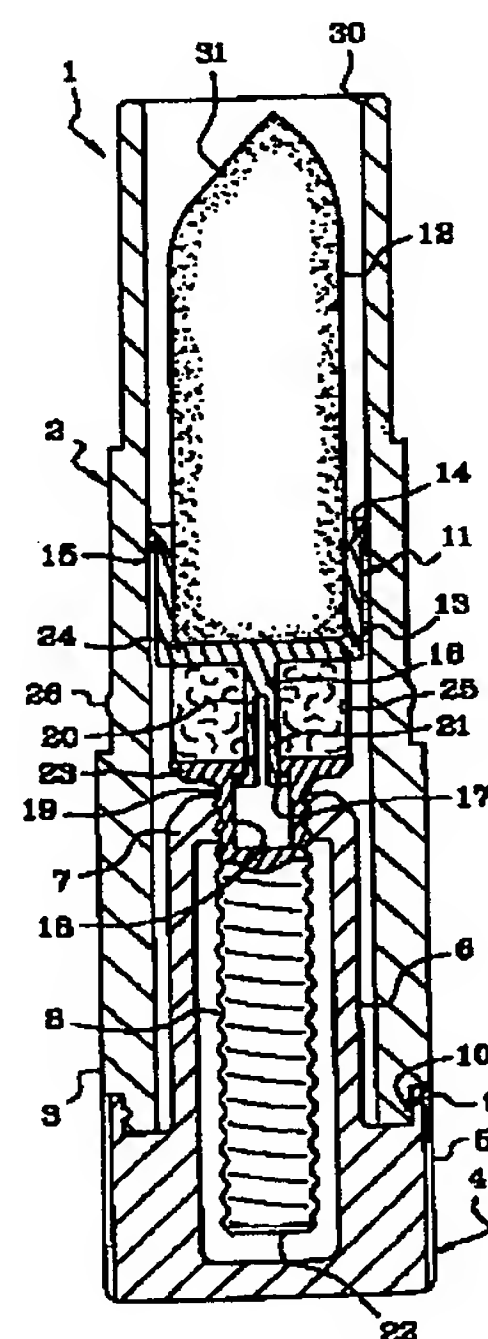
弁理士 園田 吉隆 (外1名)

(54)【発明の名称】 過剰圧力吸収機構を備えた棒状品収容具

(57)【要約】

【課題】 構造が簡単かつ安価で同時に気密性の点で信頼性の高い棒状品の収容・施与具を提供する。

【課題解決手段】 棒状品が配されると共にスリーブ内を軸方向に移動可能なカップ部と該カップ部の下方のシールをなす部材を具備し、スリーブが、着脱自在な閉止部材により気密的に閉塞される取出し口を形成する棒状品の収容・施与具において、スリーブ内に過剰圧力が発生すると、カップ部を取出し口とは反対方向に軸方向に移動せしめて過剰圧力を部分的に吸収する弾性手段を上記シールをなす部材の下方に設ける。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 棒状品（12）が配されると共に作用動作によって収容位置と施与位置の間でスリーブ（2）内を軸方向に移動可能なカップ部（11）とカップ部（11）の下方のシールをなす部材（14、44）を具備し、該スリーブ（2）が、着脱自在な閉止部材（27、28）により気密的に閉塞された取出し口（30）を形成する自由端を有する、棒状品を収容し施与する収容具（1）において、スリーブ（2）内のあらゆる過剰圧力の発生の際で特に閉止部材（27、28）を取出し口（30）に嵌合するときに、カップ部（11）を該取出し口（30）とは反対方向に軸方向に移動せしめて、上記過剰圧力を少なくとも部分的に吸収するように、弾性手段（27、28）が上記シールをなす部材（14、44）の下方に設けられたことを特徴とする収容具。

【請求項2】 上記弾性手段（25、40）が発泡体ブロック部材（25）又はエラストマー材料製の部材からなり、特にベローズの形状をなしていることを特徴とする請求項1に記載の収容具。

【請求項3】 上記弾性手段（25、40）がポリ塩化ビニル発泡体、ポリウレタン発泡体、ポリエーテル発泡体、天然もしくは合成ゴム発泡体、又はポリノルボルデン（登録商標）、シリコン又はニトリルエラストマーから選択された材料からなることを特徴とする請求項2に記載の収容具。

【請求項4】 カップ部（11）の下方のシールをなす部材が、カップ部（11）の自由端（15）により構成されたシール唇部（14）から構成されてなる請求項1ないし3の何れか1項に記載の収容具。

【請求項5】 カップ部（11）の下方のシールをなす部材が、Oリング（44）から構成されてなることを特徴とする請求項1ないし3の何れか1項に記載の収容具。

【請求項6】 着脱自在なキャップ（27）内に嵌合された熱可塑性樹脂カバー（28）により上記取出し口（30）が気密的に閉塞されたことを特徴とする請求項1ないし5の何れか1項に記載の収容具。

【請求項7】 上記弾性手段（25、40）がバネ（40）からなることを特徴とする請求項1に記載の収容具。

【請求項8】 収容位置と施与位置の間のカップ部（11）の軸方向の移動が、カップ部（11）の下方に配されたネジ棒部材（8）とナット（7）を構成する部材の相対回転によりなされることを特徴とする請求項1ないし7の何れか1項に記載の収容具。

【請求項9】 ナット（7）を構成する部材が、スリーブ（2）に対して回転自在に嵌合された作動部材（4）に回転可能に連結され、ネジ棒部材（8）がスリーブ（2）に回転可能に連結されたことを特徴とする請求項8に記載の収容具。

【請求項10】 ナット（7）を構成する部材が、上記弾性手段（40）上に浮かべられて軸方向に移動可能に設けられ、上記弾性手段（40）が、上記ナット（7）を構成する部材に軸方向に当接した第1の端部（42）と、作動部材（4）の軸方向の固定部分（103、47）に軸方向に当接した第2の端部（41）を有することを特徴とする請求項8又は9に記載の収容具。

【請求項11】 棒状品（12）をカップ部（11）内に嵌入するときカップ部（11）から空気を逃がすための空気孔（13）がカップ部（11）の底部近傍に設けられたことを特徴とする請求項1ないし10の何れか1項に記載の収容具。

【請求項12】 カップ部（11）が、棒状品（12）をカップ部（11）内に係止可能な少なくとも一の部材（100）を有することを特徴とする請求項1ないし11の何れか1項に記載の収容具。

【請求項13】 上記少なくとも一の部材（100）がカップ部（11）の内部に半径方向に突出する少なくとも一のフィンガー部（100）からなることを特徴とする請求項12に記載の収容具。

【請求項14】 空気孔（43）が、カップ部（11）の下方のシールをなす部材（14、44）より下方に形成されたことを特徴とする請求項1ないし13のいずれか1項に記載の収容具。

【請求項15】 リップスティック、ファンデーション又はトリートメント組成物の棒状品（12）を収容し施与するための請求項1ないし14の何れか1項に記載の施与具（1）の使用。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、リップスティック、ファンデーション、トリートメント組成物あるいは保湿組成物のような棒状（スティック状）製品を収容し施与する収容具に関する。本発明は、例えばある種のリップスティックに特に用いられているもののような極めて揮発性の溶媒（シリコン類）を含有する製品に特に好適である。

【0002】

【従来の技術】 典型的には、このような棒状品は、棒状品が嵌入せしめられると共に作動操作によって収容位置と施与位置の間でスリーブ内を軸方向に移動可能なカップ部と、該カップ部の下方のシールをなす手段とを具備するタイプの収容具に収容されており、該スリーブは、着脱自在な閉止部材により気密的に閉塞された取出し口となる自由端を有している。このカップ部を軸方向に移動させる機構には様々な種類のものがある。一つは、カップ部の下方に配設された雄ネジ棒部材がナット構成部材に係合されてなるものであり、このような機構はスリーブの下方に配設されたホイール部材からなる作動部材により調節される。他の例は、カップ部に取付け

られたスタッド部材がスリーブの一壁に形成された螺旋状の傾斜路を移動するように構成されてなる。このような機構は何れもこの種の容器ではよく知られている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記の構造の不具合の一つは、スリーブ内に過剰の圧力が生じることによるもので、特に収容具を閉じるときやスリーブ内の温度が上がったときに起こる。すなわち、この過剰圧力のために閉止部材が移動し、これが閉止シール部を破壊することがあり、棒状品を構成する組成物中に含まれる溶媒の蒸発が避けられず、その組成物が非常に早く全く使用できないものになってしまう恐れがある。

【0004】しかして、本発明の目的の一つは、構造が簡単で安価であり、同時に気密性の点で信頼性の高い棒状品の気密的収容・施与具を提供することである。更なる目的は以下の説明に詳細に記載する。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明によれば、これらの目的は、棒状品が配されると共に作用動作によって収容位置と施与位置の間でスリーブ内を軸方向に移動可能なカップ部とカップ部の下方のシールをなす部材を具備し、該スリーブが、着脱自在な閉止部材により気密的に閉塞された取出し口を形成する自由端を有する、棒状品を収容し施与する収容具において、スリーブ内のあらゆる過剰圧力の発生の際で特に閉止部材を取出し口に嵌合するときに、カップ部を該取出し口とは反対方向に軸方向に移動せしめて、上記過剰圧力を少なくとも部分的に吸収するように、弾性手段を上記シールをなす部材の下方に設けたことを特徴とする収容具を製作することにより達成される。

【0006】しかして、前述の過剰圧力に反応してカップ部を軸方向に移動させるか後退させるように弾性率あるいは圧縮度が選ばれる弾性手段を設けることにより、過剰圧力が吸収され、閉止部材に作用する応力が著しく低減させられる。こうして閉止部材はその役割を完全に果たすことができる。すなわち、スリーブ内に過剰圧力があっても、収容具の取出し口と外部との間の良好な気密性をもたらす。カップ部の下方のシールは、カップ部の下方に位置し棒状品を施与位置に移動させるために必要な全ての機構を含む全体部分から気密的に棒状品を分離する。シールは、特にカップ部の自由端により構成されたシール唇部によりカップ部の位置で、あるいはカップ部の下方に配されたＯリングあるいは等価物によりカップ部の下方で行うことができる。棒状品はこのようにして上方と下方の双方において外部から隔離される。

【0007】好適には、上記弾性手段は発泡体ブロック部材又はエラストマー材料製の部材からなる。このような弾性手段は、特にポリ塩化ビニル発泡体、ポリウレタン発泡体、ポリエーテル発泡体、合成ゴム（例えばＳＢＲ）発泡体もしくは天然ゴム（例えばＮＢＲ）発泡体か

ら形成することができる。あるいは、十分に可撓性のあるエラストマー材料が使用される。例としてはポリノルボルデン（Polynorbordene：登録商標）なるブランド名で市販されている材料を挙げることができる。

【0008】カップ部の下方のシールはＯリングによりもたらしすることができる。着脱自在なキャップ内に嵌合された熱可塑性樹脂カバーにより上記取出し口を気密的に閉塞することができる。上記弾性手段はバネ、特にコイルバネで構成してもよい。好ましくは、収容位置と施与位置の間でのカップ部の軸方向の移動は、カップ部の下方に配されたネジ棒部材とナットを構成する部材の相対回転によりなされる。あるいは、駆動は、上述したように、螺旋状傾斜路タイプの機構により行うことができる。

【0009】あるいは、ナットを構成する部材は、スリーブに対して回転自在に嵌合された作動部材に回転可能に連結され、ネジ棒部材はスリーブに回転可能に連結される。棒部材の連結は、非円形断面のネジ棒部材（例えばその長さの少なくとも一部にわたって２つの平坦部を有するタイプのもの）、スリーブへのネジ棒部材の回転可能な連結をもたらす対応する断面の回転方向に固定された案内部材を使用することにより達成することができる。あるいは、カップ部の下方にこの個所でのシールを付与するために配されたＯリングを用いて、カップ部が取付けられるスリーブにネジ棒部材を摩擦により回転可能に連結することもできる。

【0010】他の実施態様では、ナットを構成する部材が上記弾性手段上に浮かべられて軸方向に移動可能に設けられ、上記弾性手段が、上記ナットを構成する部材に軸方向に当接した第１の端部と、作動部材の軸方向の固定部分に軸方向に当接した第２の端部を有する。例示すると、これは作動部材の底部であり、あるいは作動部材に固定して取付けられた部材片により形成されたストッパーである。この構成において、バネとナットを構成する部材は、熱可塑性樹脂の成形により、単一の同じ部材片から得ることができる。

【0011】好ましくは、棒状品をカップ部内に嵌入するときカップ部から空気を逃がすための空気孔がカップ部の底部近傍に設けられる。更に好ましくは、空気孔は、カップ部の下方のシールをなす部材の下方にも形成される。このような収容具は、リップスティック、ファンデーションスティック又はトリートメントもしくは保湿組成物のスティックを収容し施与するために好適に使用される。

【0012】

【発明の実施の形態】上述の構成とは別に、本発明はまた、図面を参照しながら非限定的な実施形態によって以下に説明する多くの他の構成を具備する。

【0013】図１と図２に示す収容具１は、特に円筒形のシース又はスリーブ２を具備し、該スリーブ２の第１

10

20

30

40

50

の端部 3 は開口し作動部材 4 により閉塞されている。スリーブ 2 の外面には、取外し可能なキャップ 27 の内面に形成された対応の溝 50 に係合可能なビード部 26 が形成されており、キャップ 27 をスリーブ 2 に取外し可能に締結できるようになっている。特にポリエチレン製の熱可塑性カバー 28 がキャップ 27 の内部に嵌合されている。カバー 28 の内面でその開口端近傍には、端部 3 とは反対の側に位置するスリーブ 2 の自由端により画成された取出し口 30 をシールすることが可能なビード部 29 が設けられている。

【0014】作動部材 4 は、作動部材 4 の把持と駆動を容易にするリブ部 5 が側壁に設けられた円筒部材からなる。作動部材を形成する円筒部材の一端は閉塞している。他端は開口し、スリーブ 2 の内径より小なる外径のスカート部 6 が延在せしめられ、スリーブ 2 内に自在に挿入され得るようになっている。スカート部 6 は、詳細を後で説明する、棒部材 8 のネジに係合可能なナット 7 を構成する部分で終端している。作動部材 4 は、スリーブ 2 の下端 3 上に特にスナップ嵌合により回転可能に嵌合されている。このために、スリーブ 2 の端部 3 の近傍の外面に設けられた環状溝 10 に係合するように、環状ビード部 9 が作動部材 4 の内面に設けられている。このように回転可能に嵌合されたとき、作動部材 4 の外面はスリーブ 2 の外面とほぼ整合する。スカート部 6 はスリーブ 2 の軸方向高さの約 1/3 にわたって延びる高さを有する。

【0015】スリーブ 2 の内部には、リップスティック 12 の棒状部分が嵌入されるカップ部 11 が配設されている。カップ部の底部近傍には、カップ部 11 内にリップスティック 12 を嵌入するときにリップスティック 12 の棒状部分とカップ部 11 の間に捕捉された空気を逃がす空気孔 13 を形成する透孔が設けられている。カップ部 11 の自由端 15 は、外方に張り出して、カップ部 11 とスリーブ 2 の内面の間のシールを構成可能なシール唇部 14 を形成している。シール唇部 14 は、スリーブ 2 の内面に当接しているため、カップ部がスリーブ内を回転するのを更に防止する。カップ部 11 の底部 24 のリップスティック 12 とは反対側は、ネジ棒部材 8 の端部 19 に形成されたハウジング 18 の内側に係止可能な係止端 17 を有するフィンガー部 16 に連結されている。係止端 17 は上記フィンガー部 16 を構成する 2 以上の部分 20、21 の弾性変形によりハウジング 18 内に嵌入されている。係止端 17 の形状は、該端部 17 がハウジング 18 の内部を摺動することができるが回転できないようなものを選択される。

【0016】あるいは、スリーブ 2 の内面に形成した長手方向に延びるスロット内を、横断板 23 に形成したリブ部が摺動するようにして、スリーブ 2 に対してネジ棒部材 8 を回転可能に連結することもできる。この構造によれば、カップ部に対してネジ棒部材を回転可能に連結

する必要がない。

【0017】ハウジング 18 とは反対側のネジ棒部材の端部 22 は、殆ど作動部材 4 の底部まで延びている。ネジ棒部材 8 に形成されたハウジング 18 にはスリーブ 2 内を摺動することができる横断板 23 が連設されている。カップ部 11 の底部 24 と横断板 3 の間には、フィンガー部 16 がその中央の穴を通過する環状形をなす特にポリウレタン製の発泡体ブロック 25 が配設されている。発泡体ブロック 25 は、発泡体ブロック 25 とスリーブの内面との間にクリアランスが形成されるように、スリーブ 2 の内径よりも僅かに小なる外径を有している。発泡体ブロック 25 の弾性率は、発泡体が圧縮に対して提供する抵抗がスリーブ 2 上へのキャップ 27 の係止力より小さくなり、スリーブ内の過剰圧力を少なくとも部分的に吸収するようなものである。発泡体ブロック 25 をコイルバネに置換してもよい。

【0018】この収容具を使用するには、使用者はキャップ 27 を取り除く。使用者はついでスリーブ 2 に対して作動部材 4 を回転させ、ナット 7 に対してネジ棒部材 8 を駆動し、リップスティック 12 の自由面 31 が取出し口 30 を経由してスリーブ 2 から出現するまでカップ部 11 を軸方向上方に移動させる。塗布後、使用者は、リップスティック 12 がスリーブ 2 内に下がるように反対方向に作動部材 4 を駆動する。ついで、使用者はキャップを戻して取付ける。カップ部の下方（すなわち唇部 14 による）とカップ部の上方（カバー 28 のビード部 29）の双方に形成されたシール構造のために、2 つのシール領域により画成されるスリーブ 2 の部位に捕捉された空気が圧縮される。この圧縮がスリーブ内に過剰圧力を発生させ、この過剰圧力が発泡体ブロック 25 を軸方向に圧縮し（図 2 参照）カップ部 11 をスリーブ 2 の内部に僅かに戻し、スリーブ 2 の上部の圧力を低減する。ネジ棒部材 8 に形成されたハウジング 18 の軸方向の高さは、発泡体ブロック 25 の圧縮にほぼ等しい距離にわたって係止端 17 が対応して軸方向に移動するようにするのに十分である。この圧縮はおおよそ数ミリとすることができる。この圧縮に反応して発泡体ブロック 25 の下方の圧縮空気が作動部材 4 とスリーブ 2 の間のシールされていない係止領域を経由して逃がされる。あるいは、作動部材 4 の底部に特定の空気孔を設ける。従って、実際には全過剰圧力が発泡体ブロックにより吸収され、カバー 29 とキャップ 27 がさもないと受ける軸方向の応力を著しく低減する。従って、キャップがスリーブ 2 から離脱する恐れがない。このような過剰圧力はスリーブ内の温度が上昇した場合にも生じ得る。過剰圧力を吸収する機構は上述したものと同じである。

【0019】発泡体ブロックは約 1 cm の軸方向高さを有するものとすることができる。発泡体ブロックの高さが高くなるほど、それが示す緩衝性はより穏やかなものになる。

【0020】図3と図4は本発明に係る収容具の第2の実施形態を示す。この実施形態は前述の実施形態とは主に次の点で異なる：— スリーブ2内の過剰圧力を吸収するための弾性手段は、一端41が作動部材4の底部47に当接し他端42がナット7を構成する部材を支承するコイルバネ40からなる。バネは金属製でも熱可塑性樹脂製でもよい。バネ40の弾性率は、圧縮に対して付与する抵抗がスリーブ2上のキャップ27の係止力より小さく、スリーブ内の過剰圧力を少なくとも部分的に吸収するようなものである。ナット7を構成する部材はこのようにバネ40上に浮かぶように嵌合されている。ナット7は作動部材4の内面に形成された長手方向に延びるスロット45により作動部材4に回転可能に連結され、上記ナット7の一部分46が上記スロット45内を摺動する。作動部材の底部47は、作動部材を型から取外しやすくし、また収容具を組立てやすくするために追加される底部であってもよい。— 作動部材の軸方向の高さは、前述の実施形態の作動部材の高さより大きく、その内部にバネ40を収容することができる。キャップ27の係止ビード部26は作動部材4の上端に設けられている。— バネ40の圧縮から生じる容積の減少に反応して圧縮された空気を逃がすように空気孔43が作動部材の底部47に形成されている。— カップ部の下方のシールは、ネジ棒部材8の端部19に形成された横断板23の周部に嵌合されたOリング44によりもたらされる。このようなOリングは好ましくはエラストマー材料から製作される。— カップ部11の底部24は、カップ部11が回転可能でかつ並進可能に連結された横断板23に直接接触している。カップ部11は、カップ部11の外面に設けられ、スリーブ2の内面に形成された長手方向に延びるスロット102内を摺動可能な突片101によりスリーブ2に回転可能に連結されている。あるいは、単にスリーブ2の内面に対するOリング44による摩擦によって、ネジ棒部材8をスリーブ2に回転可能に連結することもできる。更には、カップ部11をネジ棒部材8との一体品として形成することもできる。— カップ部11は、製品をカップ部11内に係止させるようにカップ部11内に突出する複数の均一に離間したフィンガー部100を具備する。これらフィンガー部100は、カップ部11と共に成形することにより得られる。このような構造は、製品をカップ部内に直接鋳込む場合に特に好適である。

【0021】リップスティック12は、前述の実施形態と同じように作動部材4をスリーブ2に対して回動させて、使用のために取出し口30を通して押出され、使用後に取出し口30を通じて内部に戻される。特にキャップ27の閉塞時に、上部のシール領域29と底部のシール領域44の間のスリーブ2内に過剰圧力があると、バネ40が圧縮され（図4参照）、これがキャップ部11、ネジ棒部材8及び浮遊ナット7を軸方向後方に移動

させる。空気は作動部材4の底部に形成された空気孔43から逃げる。

【0022】図5と図6に示す実施形態は、図3と図4の実施形態の変形例である。この変形例では、嵌合片104が作動部材4内に圧入され、環状ストッパー111が作動部材4内への嵌合片104の挿入を制限している。この嵌合片104にスナップ嵌合されているのは中間片105（104に回転可能に連結）であり、これが、バネ40が配設される円筒空間を画成している。バネ40の一端41は嵌合片104に形成された環状部分103に当接する。他端41はネジ棒部材8に係合した浮遊ナット7に当接する。バネ40の弾性復元力により、ナットは中間片105に形成された肩部106に実質的に当接する。ナット7は、中間片105の内面に設けられた長手方向に延びるスロット45内を摺動するように嵌合された部分46を介して中間片105（従って作動部材4）に回転可能に連結されている。

【0023】ネジ棒部材8は、非円形（概略矩形）の断面をその長さの少なくとも一部にわたって有しており、ナット7に係合するように嵌合されている。中間片105は小径部分107まで延びており、案内片108が該部分107上にスナップ嵌合されている。案内片108は中間片105に対して回転自在である。このために、環状ビード部109が上記部分107の外面に設けられ、案内片108の内面に設けられた環状溝110と係合可能になっている。案内片108は、中間片105の自由縁114上で終端し90°にわたって折曲した部分112となっており、この部分が、軸方向の移動を許容しながら回転を防止するようにネジ棒部材8の非円形断面と形状が類似する断面をもつ透孔113を形成している。スリーブ2は案内片108に圧入嵌合されている。ネジ棒部材8は横断板23で終端し、その外周部にはOリングが設けられている。カップ部11は横断板23上に嵌合され、そのカップ部は横断板23に対して回転自在でも自在でなくてもよい。カップ部11は、図3と図4の実施形態のものと同一タイプのものである。収容具のその他の部位は図3と図4の実施形態の対応する部位と同一である。

【0024】この収容具を使用するには、使用者はキャップ27を取り除き、スリーブ2に対して作動部材4を回動させ、これが、スリーブ2に対して回転できないネジ棒部材8に対してナット7を案内する。ネジ棒部材はスリーブ内を軸方向に上方に移動し、リップスティック12の自由面31が取出し口30を経てスリーブ2から出現するまでカップ部11を軸方向上方に押上げる。塗布後、使用者は、リップスティック12がスリーブ2内に下がるように反対方向に作動部材4を回動させる。ついで、使用者はキャップを戻して取付ける。特に、キャップ27を取付ける際に、上方のシール領域29と底部のシール領域44の間にスリーブ2内に過剰圧力がある

と、バネ 40 が圧縮され（図 6 参照）、これがカップ部 11、ネジ棒部材 8 及び浮遊バネ 7 を軸方向後方に移動させる。空気は作動部材 4 の底部 47 に形成された空気孔 43 を経由して逃がされる。

【0025】上記の詳細な説明で本発明の好適な実施形態を説明した。しかし、特許請求の範囲に記載した本発明の範囲を逸脱しないでこれに変形を加えて実施することもできることは明らかである。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明に係る収容具の第 1 の実施の形態を示す断面図である。

【図 2】 図 1 の収容具の閉止状態を示す断面図である。

【図 3】 本発明に係る収容具の第 2 の実施の形態を示す断面図である。

【図 4】 図 3 の収容具の閉止状態を示す断面図である。

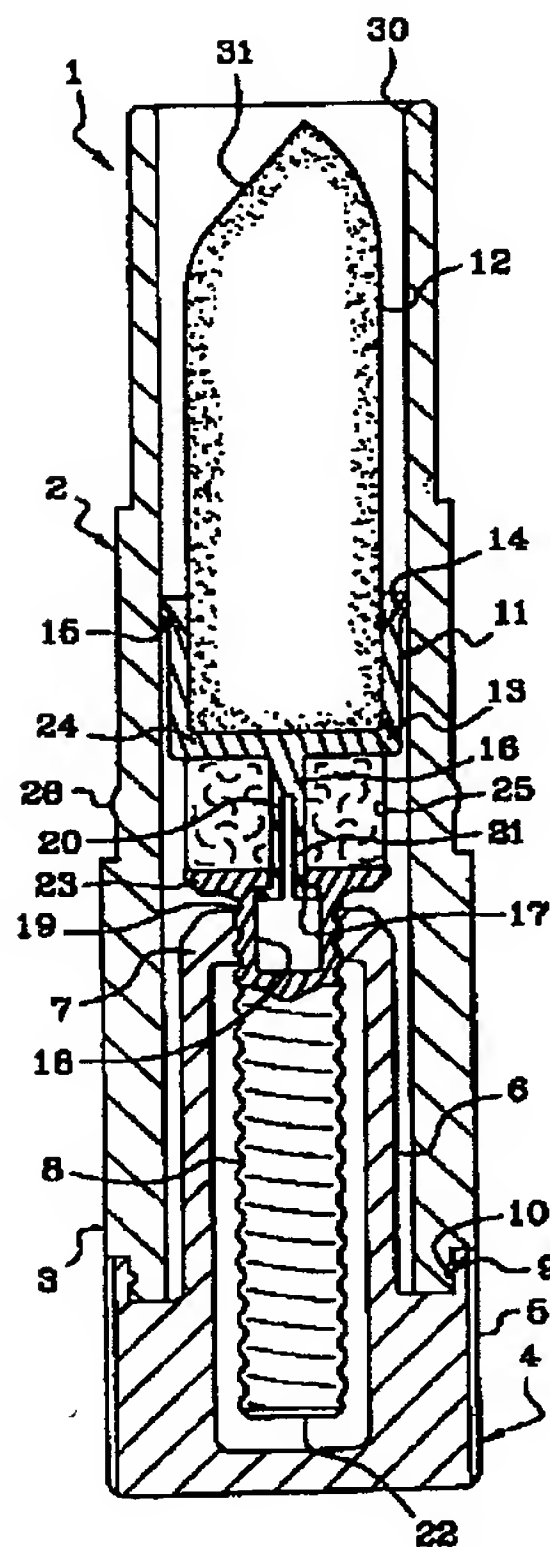
* 【図 5】 本発明に係る収容具の第 3 の実施の形態を示す断面図である。

【図 6】 図 5 の収容具の閉止状態を示す断面図である。

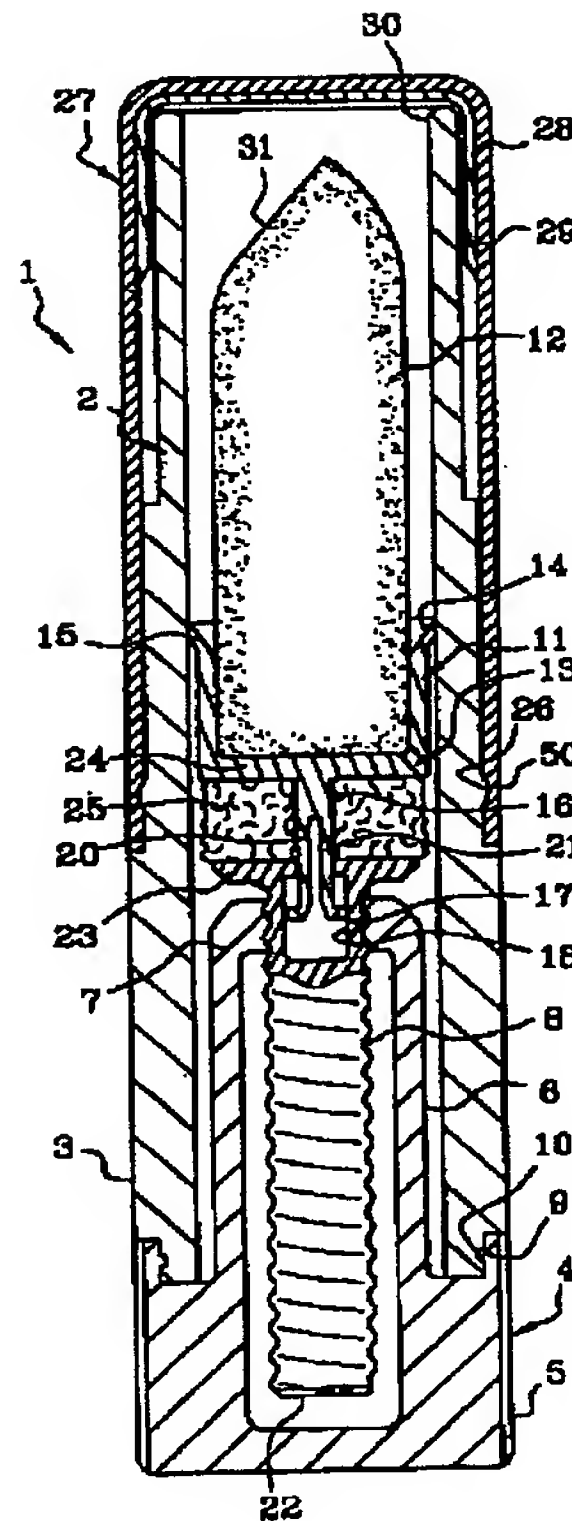
【符号の説明】

2	スリーブ
4	作動部材
8	ネジ棒部材
11	カップ部
12	リップスティック（棒状品）
14	シール唇部（シールをなす部材）
25	発泡体ブロック（弾性手段）
27	キャップ（閉止部材）
28	カバー（閉止部材）
30	取出し口
40	バネ（弾性手段）
* 44	Oリング（シールをなす部材）

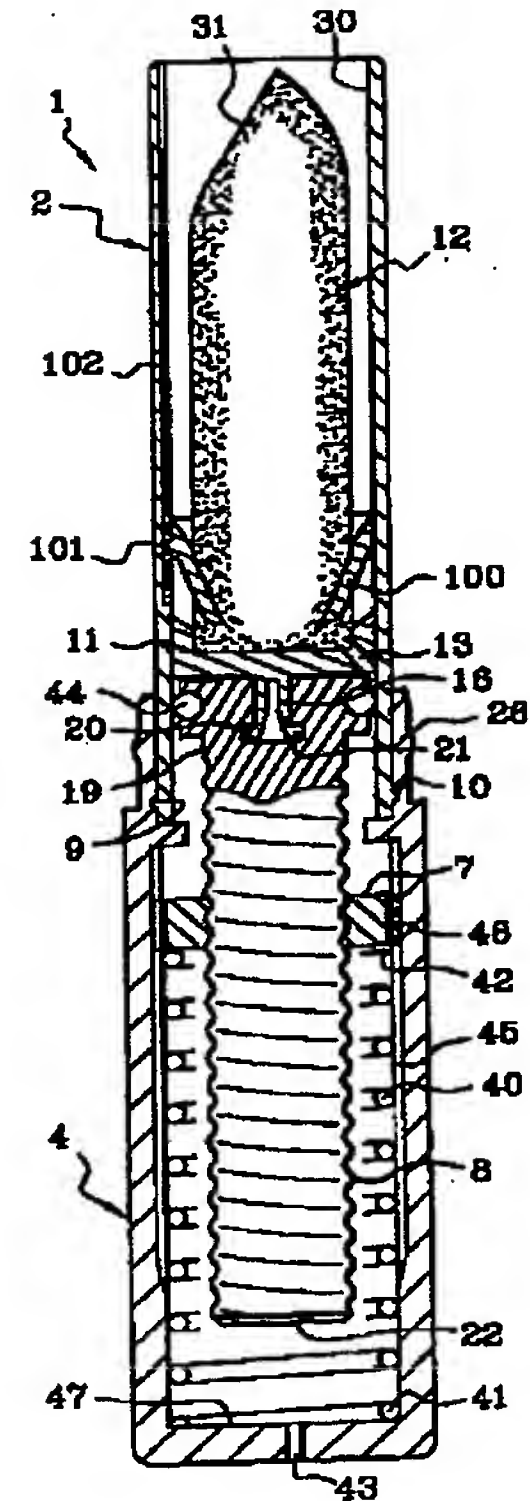
【図 1】



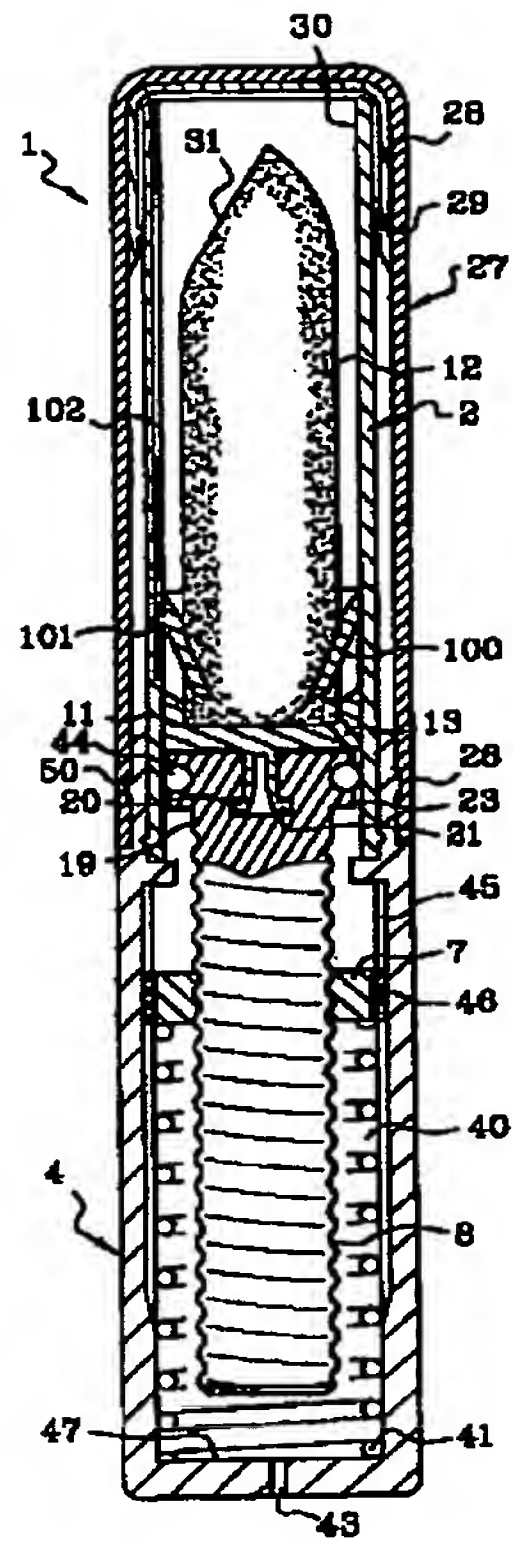
【図 2】



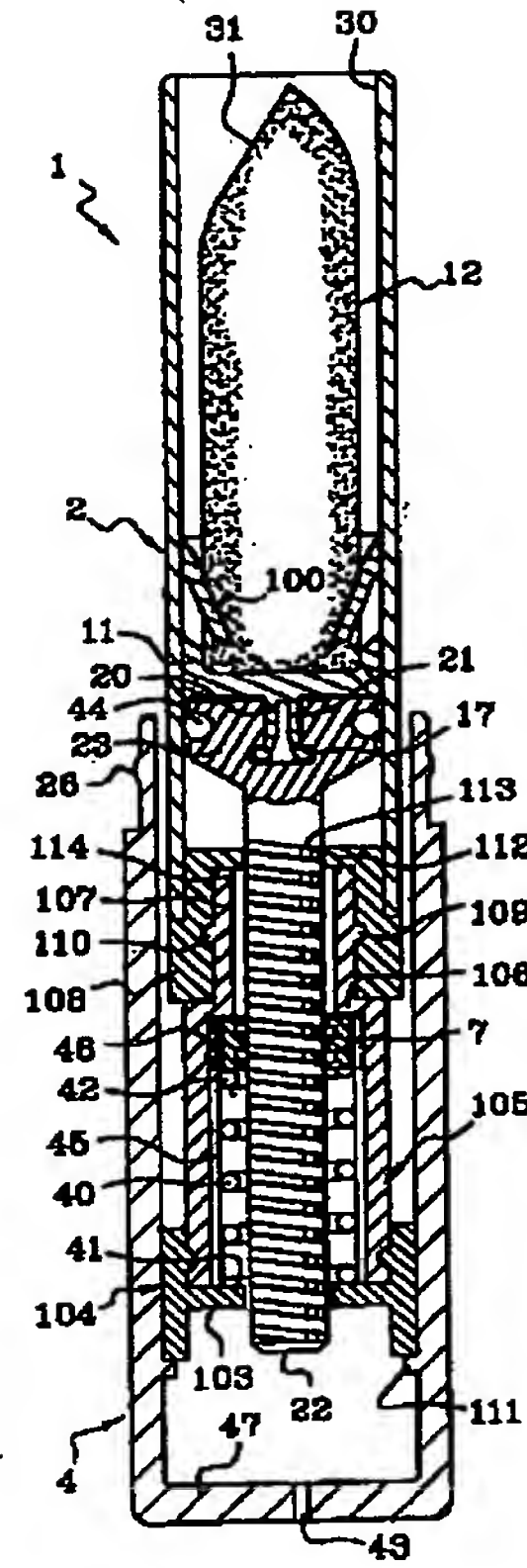
【図 3】



【図4】



【図5】



【図6】

